

緑内障患者への
ブスコパン投与について



なかむら 眼科

仲村 佳巳

緑内障は視神経が障害され視野が狭くなり、進行すると失明する疾患で、2006年厚生労働省研究によると、日本における中途失明の原因の第一位を占めています。2000年～2001年に岐阜県多治見市で行われた緑内障の疫学調査では、40歳以上の20人に1人が緑内障であることがわかりました。

緑内障の病型は大きく分類すると原発緑内障、続発緑内障、先天緑内障があります。原発緑内障はさらに房水の排出路が目詰まりすることでおこる原発開放隅角緑内障と、隅角が塞がることでおこる原発閉塞隅角緑内障の2つのタイプに分けられます。また眼圧とは眼球の硬さの目安で、その正常値は10～20mmHg、正常の平均値は15mmHgです。眼圧は房水の流入量と流出量で決定します。正常な状態ではほどよいバランスが保たれ適正な眼圧になっていますが、房水を流出する機能が悪くなると、流入しても流出ができない状態となり、眼圧が上昇してしまう恐れがあります。市販の感冒薬や病院での処方薬、または内視鏡検査の際に使用する前投薬などの抗コリン剤や交感神経作動薬は

「緑内障の方には禁忌あるいは慎重投与」となっています。これらの薬剤は緑内障の中でも房水の流出溝が狭い眼や閉塞隅角緑内障の場合に問題となります。虹彩は目の中に入ってくる光量の加減によって縮瞳したり散瞳したりしますが、散瞳することで前述した隅角が狭い目は虹彩根部が隅角を塞ぎ、房水流出の妨げとなり眼圧が上昇し、時には緑内障発作（急性閉塞隅角緑内障）を引き起こします。緑内障発作は隅角が完全に閉塞し、房水がたまって眼圧上昇を来たした状態で、ぼやけ・頭痛・眼痛・吐き気などが起こりそれを放置すれば数日から数週間で失明する恐れがあります。2008～2009年に行われた久米島における緑内障疫学調査で、沖縄県は閉塞隅角緑内障患者が全国の4倍いることがわかっています。沖縄県ではそれらの薬剤による緑内障発作の可能性が他府県に比べ高率であるといえます。大切なことは該当する薬剤の投与を行う場合、これまでに眼科で狭隅角や閉塞隅角緑内障の診断を受けたことがあるかをしっかりと聴取することです。また、その際に緑内障でも開放隅角緑内障、正常眼圧緑内障、高眼圧症と診断されている場合や狭隅角や閉塞隅角緑内障でもすでに予防的レーザー虹彩切開術（Laser iridotomy：LI）や白内障手術が施行された眼内レンズ挿入眼では薬剤の投与が可能です。患者に聴取した際に緑内障のタイプが不明な場合には薬剤の投与は慎重に行う必要があります。



緑内障患者（狭隅角眼あるいは閉塞隅角緑内障）への使用が禁忌の薬剤

■ 禁忌薬一覧

分類	薬剤名	理由	
睡眠薬	ベンゾジアゼピン系 (超短時間型)	トリアソラム	抗コリン作用を有するため
	ベンゾジアゼピン系 (短時間型)	フロチソラム ロルメタゼパム リルマザホン	
	ベンゾジアゼピン系 (中間型)	フルニトラゼパム ニメタゼパム ニトラゼパム	
	ベンゾジアゼピン系 (長時間型)	フルラゼパム ハロキサゾラム クアゼパム	
	非ベンゾジアゼピン系 (超短時間型)	ゾピクロン ゾルピデム	
	プロム塩製剤	臭化カルシウム	
抗うつ薬	三環系抗うつ薬	アモキサピン アミトリプチリン イミプラミン クロミプラミン ドスレピン トリミプラミン ノルトリプチリン ロフェプラミン	抗コリン作用を有するため
	四環系抗うつ薬	マプロチリン	
精神刺激薬	中枢神経刺激薬	ペロリン メチルフェニデート	
パーキンソン病治療薬	副交感神経遮断 (抗コリン)薬	ビベリデン プロフェナミン トリヘキシフェニジル ピロヘプテン マサチコール メチキセン	抗コリン作用を有するため
	ノルアドレナリン前駆物質	ドロキシドパ	
	レボドパ含有製剤	レボドパ レボドパ・カルビドパ レボドパ・ベンセラジド	
その他中枢神経作用薬	食欲抑制薬	マジンドール	
抗不安薬	ベンゾジアゼピン系 (短時間型)	エチゾラム クロチアゼパム フルタゾラム	抗コリン作用を有するため
	ベンゾジアゼピン系 (中間型)	アルプラゾラム プロマゼパム ロラゼパム	
	ベンゾジアゼピン系 (長時間型)	オキサゾラム クロキサゾラム クララゼパム クロルジアゼボキシド ジアゼパム フルジアゼパム メキサゾラム メダゼパム	
	ベンゾジアゼピン系 (超長時間型)	プラゼパム フルトラゼパム ロラゼパムエチル	
注意欠陥/多動性障害治療薬	SNRI	アトモキセチン	
筋弛緩薬	中枢神経筋弛緩薬	プリジニール	
	選択的ムスカリン受容体拮抗薬	チキジウム	
消化性潰瘍治療薬 (鎮痛・鎮静剤)	三級アミン合成抗コリン薬	ビベリドレート	抗コリン作用を有するため
	四級アンモニウム塩合成抗コリン薬	オキサピウム チエモニウム チメジジウム ブチルスコプラミン プトロピウム プリフィニウム プロバンテリン N-メチルスコプラミン	
	ジフェニルグリコレート系	ビベタナート	
	ベラドンナルカロイド	アトロピン ロートエキス	



分類	薬剤名	理由	
消化性潰瘍治療薬 (鎮痛・鎮静剤)	配合剤	プロバンテリン配合剤 メベンゾラート配合剤 ビベタナート配合剤 ジサイクロミン配合剤	抗コリン作用を有するため
腸疾患治療薬	過敏性腸症候群治療薬	メベンゾラート	
麻酔薬	ベラドンナルカロイド	スコボラミン	
麻薬 (鎮痛・鎮静剤)	アヘンナルカロイド系麻薬	スコボラミン	
局所麻酔薬	中枢神経興奮薬	コカイン (点眼)	
血管収縮薬	点鼻・点眼用	ナファゾリン オキシメタゾリン	アドレナリン作用により散瞳を来し、症状を悪化させる
		テトラヒドロソリン	閉塞隅角緑内障の場合には眼圧上昇のおそれがある
利尿薬 (緑内障治療)	炭酸脱水酵素阻害薬	アセタゾラミド (長期投与)	慢性閉塞隅角緑内障患者に投与すると、緑内障の悪化が不可逆化されるおそれがある
眼科用剤	縮瞳薬	ジステグミン	前駆期緑内障患者への投与は眼圧上昇を来すおそれがある
	散瞳薬	シクロペンタラート アトロピン トロピカミド フェニレフリン	眼圧上昇の素因 (緑内障、狭隅角、浅前房等)がある場合、散瞳により急性閉塞隅角緑内障の発作を起こすおそれがある
抗不整脈薬	Naチャンネル遮断薬 (クラス Ia 群)	ジピラミド シベンゾリン ビルメノール	抗コリン作用を有するため
本態性・起立性・透折時低血圧治療薬	カテコラミン系	アメジニウム	狭隅角緑内障患者への投与は急激な眼圧上昇を来すおそれがある
心不全治療薬	カテコラミン	アドレナリン (エピネフリン)	α作用により、眼圧上昇の素因 (緑内障、狭隅角、浅前房等)がある場合、閉塞隅角緑内障の発作を誘発することがある
狭心症治療薬	硝酸薬	亜硝酸アミル* 硝酸イソソルビド ニトログリセリン *狭心症治療に用いる場合は禁忌。シアン化合物解毒剤として使用する場合は、原則禁忌	閉塞隅角緑内障患者への投与は眼圧を上昇させるおそれがある
気管支拡張薬	抗コリン性気管支収縮抑制剤	イプラトロピウム オキシトロピウム チオトロピウム	抗コリン作用を有するため
鎮咳薬	中枢性非麻薬性鎮咳薬	ベントキシペリン	
総合感冒薬	配合剤	クロルフェニラミン配合剤 ジフェニルピラリン配合剤 プロメタジン配合剤	
尿失禁・尿意切迫感・頻尿治療薬	抗コリン薬	オキシブチニン プロピベリン イミダフェナシン ソリフェナシン トルテロジン	抗コリン作用を有するため
アレルギー性疾患治療薬	第一世代抗ヒスタミン薬 (エタノールアミン系)	クレマスチン ジフェニヒドラミン ジフェニルピラリン	
	第一世代抗ヒスタミン薬 (プロピルアミン系)	クロルフェニラミン トリプロリジン	
	第一世代抗ヒスタミン薬 (ピペラジン系)	シプロヘプタジン ホモクローシクリジン	
	第一世代抗ヒスタミン薬 (フェノチアジン系)	アリメマジン プロメタジン	
	第二世代抗ヒスタミン薬	メキタジン	
制吐・鎮静薬	配合剤	ジフェニヒドラミン配合剤	
	第一世代抗ヒスタミン薬 (エタノールアミン系)	ジフェニヒドラミン配合剤	